



2018年12月16日、福江文化会館での打ち合わせ風景

会福祉法人純心聖母会養護老人ホーム「恵の丘」(長崎市三ツ山町)は創設50周年を祝った。当日は穏やかな天候に恵まれ、約70人の関係者の参加を得て、家族的な雰囲気のうちに感謝の集いが持たれた。

1934年、当時の長崎教区長ヤヌワリオ早坂久之助司教によって創立された純心聖母会は、当初より教育と社会福祉の活動を通して福音宣教することを使命としていた。先に教育事業に着手したが、シスター・江角ヤスは、原爆の犠牲となつた親しいだつた多くの純女学徒に代わつて年老いた方々のお世話をしようとして、温めていた構想を具体的な

不思議なつながりで再演を続ける
日本の信徒発見150周年記念劇
「そしてサンタ・マリアがいた」に関わつて

浦上教会信徒 中嶋信行

日本の信徒発見150周年記念劇「そしてサンタ・マリアがいた」の第7回五島公演が終りました。始まりから5年、よ

くここまで続いたものだと不思議な気持ちです。この劇は2015年の「日本信徒発見150周年」を記念して、当時の浦上教会主任の小島栄神父様を中心とした中地区評議会でキリスト復活を劇にして上演しようという話がきっかけだつたようです。古巣馨神父様に脚本を依頼し監督も務めてしまつた。そこで練習がスタート。私は助監督として手伝ひ始めました。

初演は2015年3月、「チトセピアホール」。ほんとはこれ一回きりのはずでした。ところが、高見大司教様や佐世保地区的神父様から再演依頼があ

りました。始まりから5年、よ

くここまで続いたものだと不思

議な気持ちです。

この劇は2015年の「日本信徒発見150周年」を記念して、当時の浦上教会主任の小島栄神父様を中心とした中地区評議会でキリスト復活を劇にして上演しようという話がきつかけだつたようです。古巣馨神父様に脚本を依頼し監督も務めてしまつた。そこで練習がスタート。私は助監督として手伝ひ始めました。

初演は2015年3月、「チ

トセピアホール」。ほんとはこ

れ一回きりのはずでした。とこ

ろが、高見大司教様や佐世保地

区の神父様から再演依頼があ

ります。しかし舞台装置と

演技のレベルはどんどん上がつ

てきました。私も北九州公演立ちましたが、本番は本当に緊張するものです。セリフを飛ばし

るため、同実行委員会が設立されることになる。

また、小教区の再編成

について意見が交わされ

ます。詳細は各小教区に配布されています。

お電話でお問い合わせください。

相談室長 マリア 福田真理

* 第3月曜日と休日(祝日、教区本部事務局休業日などを除く)

相談室長 マリア 福田真理

相談室長 マリア

力障連全国大会 2018年横浜から2021年長崎へ

教区本部事務局 片岡 英和

2018年10月20日～21日、聖光学院中学高等学校(横浜市)で開催された力障連(日本カトリック障害者連絡協議会)の全国大会へ参加してきました。この大会は3年ごとに全国各地で開催され、次回2021年は長崎が担当とされています。



力障連のシンボルマーク「わ」

今回の横浜大会は「互いの弱さを認め合い、共に生きよう」というテーマのもとに進められました。人が持つ優生思想(障害の有無や人種などを基準に人の優劣を定め優秀な者にのみ存在価値を認めています。

この問題を越えていける鍵になるのはという思いが詰まっています。大会は基調講演・分科会などが計画され、各項目で障害者のことを考えさせられる構成となっていました。講演での講師は安積遊歩(あさかゆうほ)さん。生後40日には骨形成不全症と診断され、20代の頃からさまざまな障害者運動へ関わってこられたそうです。現在の世の中にある優生思想について話を伺いましたが、健常者である私たちが意識していないところでも差別化を感じるところがあるのだなと非常に驚きながら傍聴しました。

障害者は障害者であるがゆえに自然と他人の弱さへと考えが及びます。しかし、健常者は意識をしないと他者へ考えを巡らすのは難

しいように感じます。例えば教会

の見えない方のための点字なども用意があるのでしょうか。

あらためて考えてみるとさま

ざまなことが頭に浮かんできま

ますが、通常から意識している

ことはできません。また目

の見えない方のための点字なども用意があるのでしょうか。

あらためて考えてみるとさま

ざまなことが頭に浮